

秋の尾瀬山行記録



期 日 : 2012年10月15日～17日

メンバー : L田邊浩二、小林茂、加藤平二、大和義孝

コースタイム :

10月15日(月)晴のち曇

加藤宅 4:30＝小林宅 5:00＝大和宅 5:30＝田邊宅 6:05＝横横 能見台IC6:10＝狩場料金所 6:20＝
湾岸葛西経由＝大泉JC7:35＝関越道＝7:45 三芳PA7:55＝沼田IC9:05＝9:40 戸倉駐車場 10:07＝
(乗合タクシー)＝10:30 鳩待峠 10:50—12:16 横田代 12:45—中原山山頂 13:00—あやめ平 13:30—
富士見田代 13:45—14:16 土場 14:30—長沢の頭 14:47—長沢橋 15:55—16:30 龍宮小屋(泊)

10月16日(火)霧のち晴

A班(小林、加藤)

龍宮小屋 7:30—9:00 山の鼻 10:45—各ベンチで30分休憩—13:00 鳩待峠 14:45 B班と合流

B班(田邊、大和)

龍宮小屋 6:45—7:58 山の鼻 8:15—森林限界 9:10—標高差の中間地点 9:50—10:55 高天原 11:10—11:35 至仏山山頂 11:45—12:35 小至仏山 13:00—オヤマ沢田代 13:25—14:45 鳩待峠(A班と合流) 14:58=(乗合タクシー)=15:20 戸倉 駐車場 15:40=16:30 老神温泉 山口屋(泊)

10月17日(水)晴

老神温泉 山口屋 9:10=9:20 金子りんご園 9:25=9:30 吹割の滝 10:40=関越道 沼田 IC 11:30=12:05 高坂PA 12:40=練馬IC 13:00=第三京浜=横横 能見台IC 14:05=田邊宅 14:10=大和宅 14:40=小林宅 15:10=15:40 加藤宅

凡例 =: 乗り物による移動 -: 徒歩による移動
 —XX:XX ○○山頂 YY:YY—: XX:XX は到着時刻、YY:YY は通過時刻または出発時刻



小林

田邊

大和

加藤



記 録：

10月15日(月)晴のち曇

加藤さんが車で自宅を4:30に出る、小林宅、大和宅、田邊宅と寄り、横横の能見台ICから高速道路に載る、当初は横横、横浜新道、第三京浜、環八、関越を通る予定だったが、通勤時間帯にぶつかり通勤車が予想以上に多い為、湾岸、首都高、関越と言うコースに変更した。関越に入り三芳PAで小休止し、沼田ICで関越を降り、沼田街道を戸倉に向かう、予定では鳩待峠の駐車場に車を置く予定だったが、戸倉のバス停で様子を聞いた所、鳩待峠の駐車場は満杯で戻って来る車が有るとの事、仕方がないので戸倉の駐車場に加藤車を置き、乗合タクシーで鳩待峠に行く、タクシー代は一人900円、バス代と同じである。鳩待峠に10:30に着く、身支度を整えて10:50出発する。



鳩待峠からの至仏山



鳩待峠の尾瀬看板の前で



鳩待通りの入り口



落ち葉を踏みしめ登る



今日のコースはアヤメ平の有る鳩待通りを通り、長沢新道を経て龍宮小屋まで行く。鳩待通りは鳩待峠から中原山山頂まで標高差約 400mの登りである。鳩待峠東側の鳩待山荘と休憩所の間を通り抜けブナ林の中の山道を登って行く、山道は登りが緩やかになると熊笹に覆われた木道になる、落葉樹の葉はやや黄色身を帯びている、時々針葉樹林の緑に囲まれた中に真っ赤に染まった紅葉が有りきれいだ。一時間半ほど歩くと道が開け横田代に着き、横田代の標識の前の木道に腰掛け昼食を取る。横田代は傾斜湿原で池塘が有り草紅葉が美しい、天候はガスがかかり始め、晴れていれば燧岳等が展望できる様であるが残念。



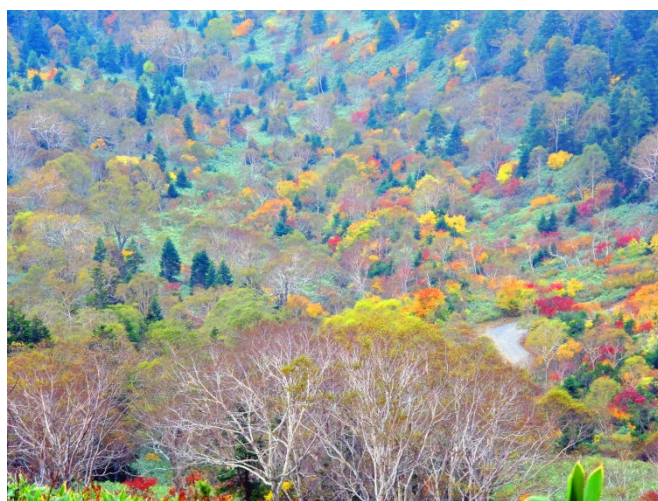
中原山の標識



アヤメ平



アヤメ平のテラスベンチにて



木道を挟んでアヤメ平と反対側の谷の紅葉

横田代を過ぎると再び森林帯となり、この尾根の最高地点 1968.8mの中原山に到着、眺望は効かない、ほぼ平らな森林帯の道を抜けると横田代よりも広い傾斜湿原のアヤメ平である、一面草紅葉と池塘に覆われている。木道の左側は湿原が広がるが右側は大赤沢の谷へ落ち込んでいる斜面である、この斜面の下方に広がる赤、黄色の紅葉と白樺の幹の白のコントラストが素晴らしい。この頃になるとガスが濃くなって来る、再び森林帯に入り分岐点に出る直進が富士見峠方面、左折が尾瀬ヶ原方面である、山道の脇に池のある富士見田代が見える。我々は左折し尾瀬ヶ原の龍宮小屋に向かって長沢新道を下る、緩やかな下りの木道が長沢頭まで続く分岐点から 30 分ほどでやや開けたベンチのある土場に到着して休憩、途中に紅色のキノコが群生していた、そこから 15 分程で長沢頭を通過し、急なじぐざくの道になり木道が有ったり石段有ったりする。暫く下ると沢の水音が聞こえてくるやや斜面も緩やかになると長沢橋である。標高が低いからか日が射ってきて木漏れ日がきれいである、森林帯を出ると尾瀬ヶ原である、夕日に草紅葉が照らされ美しい、写真を撮りながらゆっくり尾瀬ヶ原を進み 14 : 30 に龍宮小屋に着く。今日のコースは 5、6 人の人しか会わず、実に静かなコースである。



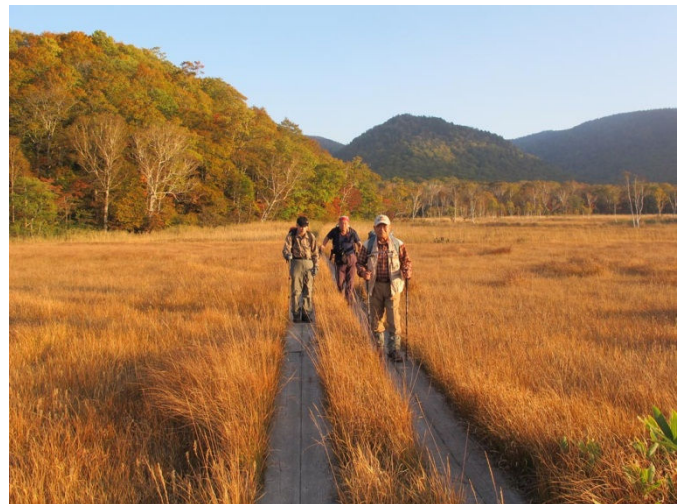
富士見田代



長沢新道 上部のキノコ (ベニタケ?)

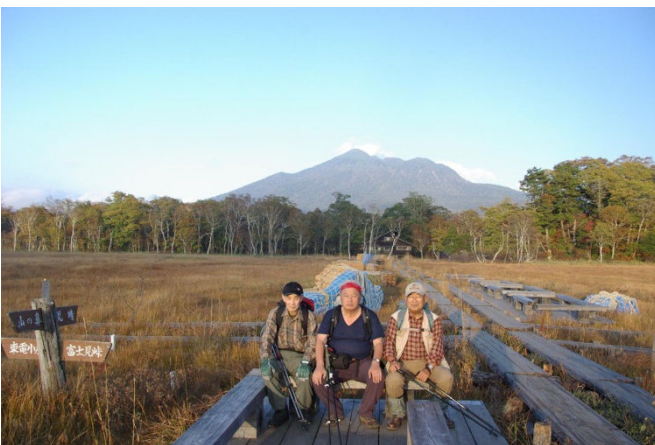


長沢新道の下部



夕日に照らされた尾瀬ヶ原に出る

宿泊は事前に田辺さんが予約済である。明日の朝食は 6 : 00 からで、早立ちする場合は朝弁を作ると言うが、小屋の主が朝早いと木道が凍結していて滑りやすいので遅らせた方が良くとの事で朝弁にせず朝食を食べてから出発することにする。一部屋 4 人で寝ることになった、夕食は 17 : 30 からである。夕食前に風呂にも入れた、ただし石鹸は使えず汗を流すだけである 3,40 人が宿泊していた、平日と言うのに盛況である、やはり年寄りの団体客である。
(以上、大和記)



尾瀬ヶ原の長沢新道分岐点のテラスベンチにて



龍宮小屋前で

10月16日(火)霧のち晴

今日は尾瀬ヶ原を散策するA班（小林、加藤）と至仏山を登るB班（田邊、大和）に別れて行動し
15:00に鳩待峠で合流することにした。

A班



出発の龍宮小屋前で小林さん



霧の向う側で太陽が昇る

龍宮一牛首一山の鼻までは真面目に散策し、刻々変わる尾瀬を写真にしていますが、あまりにも時間が余るため各休憩ベンチで30分足を止めて山バアーバ、山ジージの話を楽しんだ。15時、峠集合だったが13時に着いてしまった。とにかくのんびりした散策でした。（以上、加藤記）



霧が晴れ上がった直後の燧岳



鳩待峠への登りのテンマ沢付近の大岩



鳩待峠への登山道からの至仏山

B班

A班を残し龍宮小屋を6:45出発する。尾瀬ヶ原は霧で覆われ視界は50~100mである。霧の晴れる瞬間を撮ろうとする人々が三脚を構えている。寒さはそれほど寒くない、露に濡れた木道を行く、木道の架け替えが行われており有りがたい事である。木道上にはネズミらしい死骸が山の鼻までの間で2匹ほど見る、なぜ木道上で死ぬのか不思議に思いながら歩く。

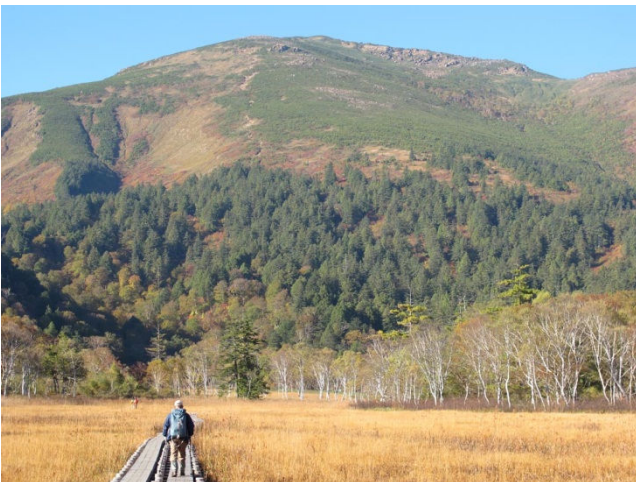


霧の晴れる瞬間を狙うカメラマンたち



次第に霧が晴れて行く至仏山

振り向くと墨絵の様に霧の中に太陽がぼんやりと明るく上ってくる。山の鼻に近づくに従い霧が薄くなる、8:00頃になると霧は晴れ至仏山がハッキリ見え、山の鼻に到着する。7,8人が休憩したり身支度をしている、我々も休憩し上着を脱ぎ身支度を整える。

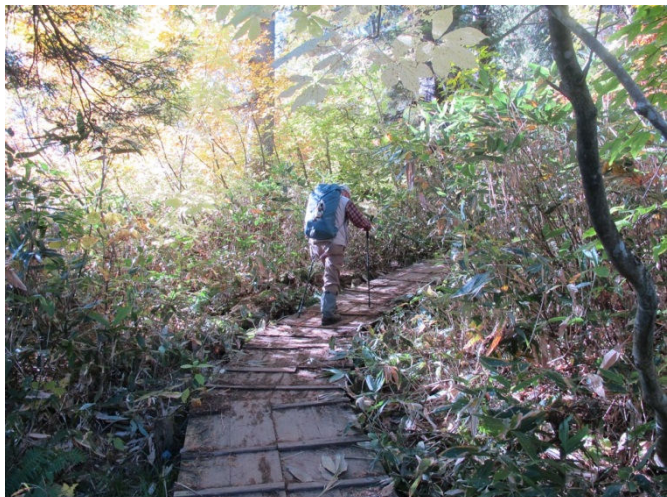


霧が晴れた至仏山 登山道が見える



至仏山の入り口 下り禁止の看板

山ノ鼻から湿原を少し行くと至仏山の登り口である、植生保護および登山者安全のため登り口に『山ノ鼻ー至仏山頂は「上り」で利用し、「下り」には利用しないで下さい』という看板が有る。岳樺やシラビソ等の森林帯の木の階段や木道、土や石の階段を上る。木漏れ日に照らされた紅葉が美しい。



良く整備された森林帯の山道



森林限界手前のテラスベンチ

1時間程登ると森林限界である、森林限界を抜け、振り向くと尾瀬ヶ原の向うにくっきりと燧岳が見える。暫くすると尾瀬ヶ原（標高 1400m）と至仏山(2223m)の標高差 823mの中間を示す標識が有る、標高 1812mである。ここからは蛇紋岩の大きいごろごろの石と木の階段の道である。



標高 1800m付近からの燧岳

今日は天気が良いので安全であるが雨に濡れたら大変と思われる。登りがやや緩やかになると高天原で、テラスベンチあり休憩。見晴らしが良い。昨日歩いた横田代が東の遠くの尾根に見える。



高天原直下の木の階段



高天原 テラスベンチの側で

ここから山頂までは良く整備された木階段で歩き良い、30分ぐらいで頂上に着く、山頂は360度見渡せるが、遠くの山々の名前が分からなくて悔しい、山頂には3、40人の人が集っている、昼食にしようとしたが人が多いので写真を撮ってから、大きい石や岩の多い尾根道を小至仏山まで行き昼食にする。



至仏山山頂



至仏山の下り 中央の山が小至仏山

小至仏山からは尾根の少し下の斜面の比較的なだらかな木道を下る、オヤマ沢田代に着く、ここが森林限界でここからは森林帯を下る、時々開けて燧岳が望める。



小至仏山から鳩待峠への下り



森林帯の鳩待峠への下り道

鳩待峠が近くなるにつれ木道を補修する木材を運ぶヘリコプタの音がだんだんと大きくなる。ぎりぎり15

時には間に合い、14:45 鳩待峠に出てA班と合流する。聞けばA班は13:00に着いたとの事、大変待ってしまった。

合流後

鳩待峠からは4人一緒に乗合タクシーで15時頃出発し戸倉の駐車場に着き、加藤車に乗り換えて老神温泉山口屋に行く、16:30に着く、このホテルは溪谷の際に建ち、温泉は源泉かけ流しで露天風呂からの眺めは素晴らしい、TVでも紹介されたそうである。(以上、大和記)

10月17日(水)晴

春来たときは時間がなく行けなかった天然記念物の吹割の滝を見物する事にし、山口屋を9:10に出発する。尾瀬方面に戻り、ホテルで推奨の金子りんご園に寄り、りんごを買い、9:30に吹割の滝近くの伽羅苑駐車場に着く、車を置き、観光ルートに従い、溪流の中の島に有る浮島観音堂、吹割の滝、鱒飛の滝などの見物と、土産などの買い物を1時間程した後、帰途に着く。

沼田ICから関越道に入り高坂PAで昼食を取り、環八、第三京浜、横横 能見台ICで高速を出、田邊宅に14:10着き、以後大和、小林を降ろし加藤宅に15:40に着く。

(以上、大和記)



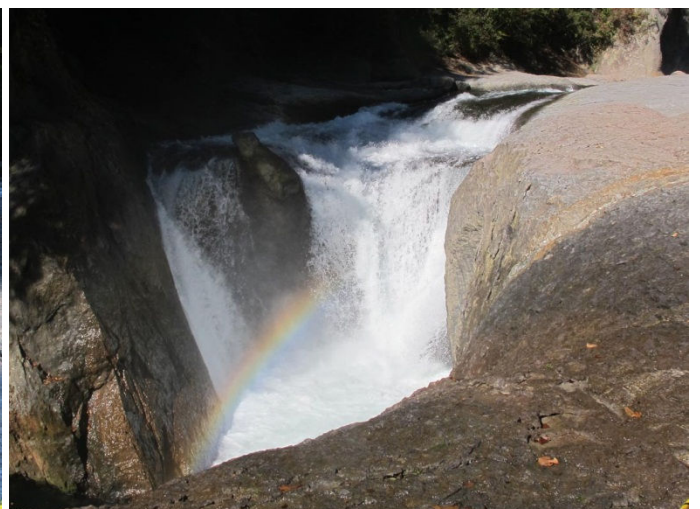
片品川の中の浮島 観音堂



上流から見た吹割の滝



下流から見た吹割の滝



吹割の滝の下流に有る鱒飛の滝

以上

